

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年12月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第41週以降増加に転じています。幅広い年齢層での感染がみられます。
- インフルエンザや感染性胃腸炎など増加の兆しがみられ、今後の動向に注意が必要です。
- 梅毒などの性感染症が高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

＜12月期に報告された全数把握疾患＞

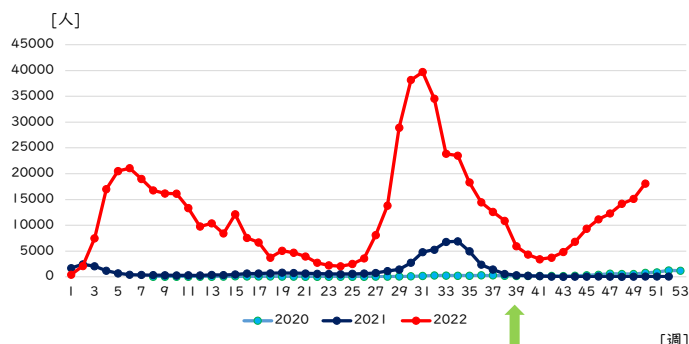
腸管出血性大腸菌感染症	6件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
E型肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
A型肝炎	1件	梅毒	16件
レジオネラ症	4件	破傷風	1件
アメーバ赤痢	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	百日咳	2件
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件		

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:10歳代～30歳代で、血清群O157が2件、O26が1件、Og146が1件、不明が2件で、経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 2 E型肝炎:30歳代で、経口感染と推定されています。
- 3 A型肝炎:80歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 4 レジオネラ症:50歳代～90歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 5 アメーバ赤痢:70歳代で、性的接触(同性間)と推定されています。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:60歳代～80歳代で、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症:50歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回1件、3回1件、不明2件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 9 水痘(入院例に限る):80歳代(ワクチン接種歴不明)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 10 梅毒:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間15件、詳細不明1件)ありました。
- 11 破傷風:70歳代(ワクチン接種歴不明)で、創傷感染と推定されています。
- 12 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:90歳代で、感染経路等不明です。
- 13 百日咳:10歳未満(ワクチン接種歴4回1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

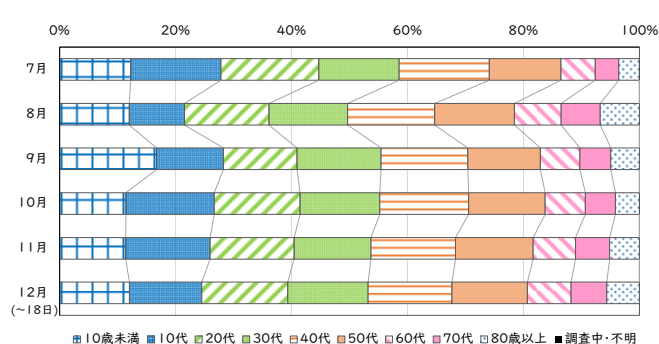
第47週～第50週に横浜市から報道発表がありました症例は59,652件でした。

- ◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています。(緑矢印)



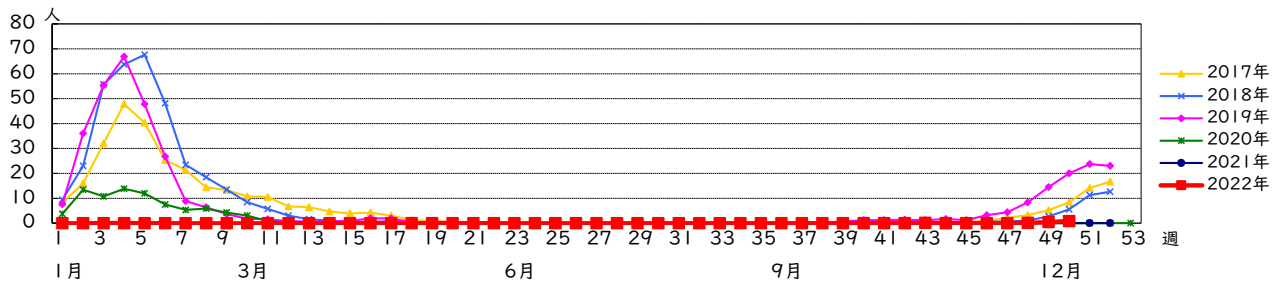
2 年齢層別患者割合

報告週対応表	
第47週	11月21日～11月27日
第48週	11月28日～12月 4日
第49週	12月 5日～12月11日
第50週	12月12日～12月18日

◇ 定点把握の対象

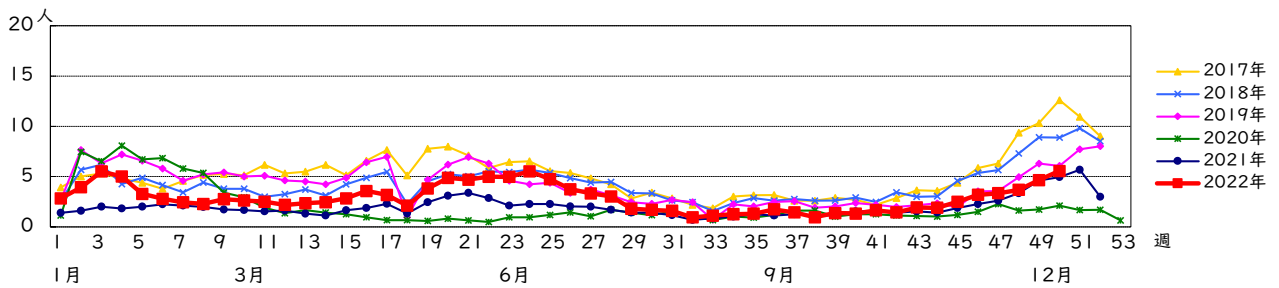
1 インフルエンザ:

第46週以降はわずかに増加しており、第47週0.04、第48週0.15、第49週0.42、第50週0.91です。



2 感染性胃腸炎:

第45週以降増加に転じ、第47週3.35、第48週3.69、第49週4.65、第50週5.55です。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7件	女性: 7件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:16件	女性: 3件

4 基幹定点週報

	第47週	第48週	第49週	第50週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.33	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月期(2022年第47週～第50週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点33件、内科定点1件、基幹定点7件及び定点外医療機関4件でした。

アデノウイルス1型分離1株、アデノウイルス2型分離1株及びヒトパラインフルエンザウイルス3型分離1株並びに各種ウイルス遺伝子22件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第47週～第50週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	新 生 児 発 熱
アデノウイルス1型	1 —		
アデノウイルス2型	1 —		
エンテロウイルスD68型		— 1	
ヒトコロナウイルス*	— 1		
ヒトメタニューモウイルス		— 2	
ヒトパレコウイルス3型			— 1
ヒトパラインフルエンザウイルス1型	— 1		
ヒトパラインフルエンザウイルス3型	1 1	— 5	
ライノウイルス	— 5	— 4	
RSウイルス サブグループA		— 1	
合計	3 8	— 13	— 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

* ヒトコロナウイルス: HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

12月期(2022年第47週～第50週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、サルモネラ属菌1件、大腸菌1件でした。非定点からの検査は、非結核性抗酸菌(NTM)2件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌5件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、侵襲性肺炎球菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、レジオネラ属菌1件、バンコマイシン耐性腸球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、非定点からライム病(ボレリア)3件、保健所からレジオネラ属菌2件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎1件、胃腸炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2022年第47週～第50週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Blockley (1)	
		大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O157 : H40 (1)	
	非定点	非結核性抗酸菌(NTM)	2	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (2)	
保健所		腸管出血性大腸菌	5	O157 : H7 VT1 VT2 (1)、O157 : H7 VT2 (1)、O157 : H- VT1 VT2 (1)、O26 : H11 VT1 (1)、Og146 : Hg10 VT1 (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
		侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 22型 (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 33型 (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	F群溶血性レンサ球菌 (1)	
		レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> SG9 (1)	
		バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium</i> <i>vanA</i> (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	非定点		血清	1	抗ボレリア抗体 IgG : ボーダーライン、IgM : ボーダーライン (1)
			全血	1	RealtimePCR ライム病ボレリア、回帰熱群ボレリア 陰性 (1)
			痂皮	1	RealtimePCR ライム病ボレリア、回帰熱群ボレリア 陰性 (1)
保健所		喀痰	レジオネラ属菌	2	培養陰性 (2)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等	
小児科定点		咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1)
		直腸ぬぐい	胃腸炎	1	黄色ブドウ球菌 エンテロトキシンC (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】